

HP「国際物流トピック 山縣敏憲が熱く語る」第二話 。5月13日以降HPに掲載

風が吹いたら桶屋が儲かる

『風が吹いたら桶屋が儲かる』、言葉自体は皆さんよく存知ですよ。もちろん意味は、「全く関係の無い事柄がどこかで繋がっている」という意味であります。

では何故、風が吹いたら桶やさんが繁盛するのか、ご存知ですか？話は江戸時代です。今のように舗装などされていない道ばかりですから、風が吹くとほこりが立ち、目に砂が入って失明する人が増える。その時代は、盲人は三味線引きになるしかなかったので、三味線の需要が増える。三味線の胴は猫の皮なので猫が減る。ネズミの天敵の猫が少なくなるとネズミが増えて桶をかじる。だから桶屋は儲かるという式が成り立つ訳ですね。

米国で不景気風が吹いたら東京の仕事が無くなったというお話です…

リーマン・ショックによって米国の景気が落ち込み、米国内需要が低迷しています。去年のクリスマスですが、親の懐が寂しいわけですから、プレゼントの玩具も全く売れません。もちろん今や玩具の生産地は中国・広州です。玩具の工場がバタバタ倒産しちゃいました。玩具を輸送する為に使う、段ボール箱生産工場も大幅な落ち込みや、倒産に追いやられています。段ボールの需要が落ちれば、原料の古紙の需要が減ります。古紙は日本からの輸出品です。その輸出が止まれば、荷動きが止まります。結果日本のドレー屋さんのお仕事が激減しているというお話です。

今回は不景気風が吹くほど、元気になっている物流もあるよっ！…というお話にしましうね。